

<桑山忠明作品集刊行のお知らせ>

皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、桑山忠明のカタログがドイツの出版社 EDITION ALEX MENGESより出版されることになりましたのでご案内申し上げます。

カタログ内容：

桑山忠明- In Pursuit of Lucidity- 明晰な追求

テキスト：林 道郎 136 頁 110 作品図版

サイズ：242 x 297.5 mm ハードカバー装丁

英語版（日本語別刷添付）但、日英語は林道郎原文 ISBN 978-3-936681-80-2

定価：10,000 円 + 送料（実費）

桑山忠明（1932-）は1958年ニューヨークに渡る。

1960年代にはアメリカの最先端のアートシーンを担う。同時代のミニマリストのダン・フラビン、ドナルド・ジャッド、アースワークのロバート・スミッソン、ウォルター・デ・マリア達が独自のアート作品を発表したように、桑山も水平・垂直で構成された作品を並列した平面作品やモノクロームのキャンバスを金属薄板で分割した作品に代表されるオリジナル性の高い作品スタイルを築き上げ、他のアメリカの若手作家達にも多大な刺激を与えました。

1961年、1962年に有名なグリーンギャラリーでの2回の個展を開催。以後、アメリカ、ドイツ、スイス、オランダ、イスラエル、日本の多くの重要なギャラリー、美術館で作品は紹介される。

また、ニューヨークの近代美術館、グッゲンハイム美術館、デンマークのルイジアナ美術館、ドイツ、エッセンのフォルフガング美術館、ベルリンのナショナルギャラリー、シュツットガルトの市立美術館、日本の東京国立近代美術館、東京都現代美術館、大阪国立美術館等、主要な美術館に作品は所蔵されている。

桑山の初期の絵画は非常に斬新であった。ハンス・ホフマン、マーク・ロスコの奥行きのある雰囲気、バーネット・ニューマンのフラットで包み込むようなカラー・フィールド、ジャクソン・ポロックの油性塗料の全面的な絡み合いといった抽象的表現主義の平面スタイルとは対照的に、それらは、過度な表現要素を完全に排除し、純然たる幾何学的図形及びその反復によってキャンバス画面に直接的に観者の眼を向けさせる。更に、桑山作品のメタリックな表面は、見る人が立っている空間環境への意識をも喚起することになる。

桑山は「観念、思想、哲学、理性、意味、作家の人間性さえも私の作品には一切入り込まない。そこにはただ芸術そのものがある。それに尽きる。」と言及している。

現在も桑山の芸術は「明晰な追求」がされている。近作の形式 - より大きな全体を形成するために繰り返される単一の幾何学的な要素 - も初期の考え方に関連して持続されている。1960年70年代のキャンバスにメタリックペイントの方法は近年にはアルミニウム、チタンのような他の素材に取ってかわりました。桑山は、光がより反射する素材を使い、周囲の空間と作品の相互作用を明確に意識でき、尚かつ、見る人が移動し乍ら色彩経験する世界もしくは実験の場を築き上げています。

60年代から現在までの110図版に加え、林道郎氏のテキストは桑山芸術の本質を明解に浮かび上がらせた構成になっているものと確信いたしております。

林 道夫氏 (1959-)

東京大学文学部卒業、東京大学大学院、コロンビア大学大学院で西洋美術史を専攻、1999年、ポール・セザンヌに関する博士論文でコロンビア大学大学院美術史学科博士号取得。武蔵大学人文学部助教授、上智大学比較文化学部助教授、教授を経て、上智大学国際教養学部教授。

現職：上智大学国際教養学部教授・学部長、日本美術史家、美術批評家

著書： 『絵画は二度死ぬ、あるいは死なない』(全7冊、2003-2009年)

共編： 『ルートヴィヒ・コレクション：ポップ・アート：20世紀の大衆芸術革命』(セゾン美術館)

From Postwar to Postmodern: Art in Japan 1945-1989 (New York: Museum of Modern Art, 2012)

翻訳： エミール ディ・アントニオ、ミッチ・タックマン『現代美術は語る ニューヨーク・1940 - 1970』
(青土社、1996年)

敬具

2015年3月

大阪市西区靱本町 1-7-3 〒550-0004

PAX 本町ビル 201

ギャラリーヤマグチクンストバウ

T. 06-6136-8600 F. 06-6136-8605

E-mail: book@g-yamaguchi.com